

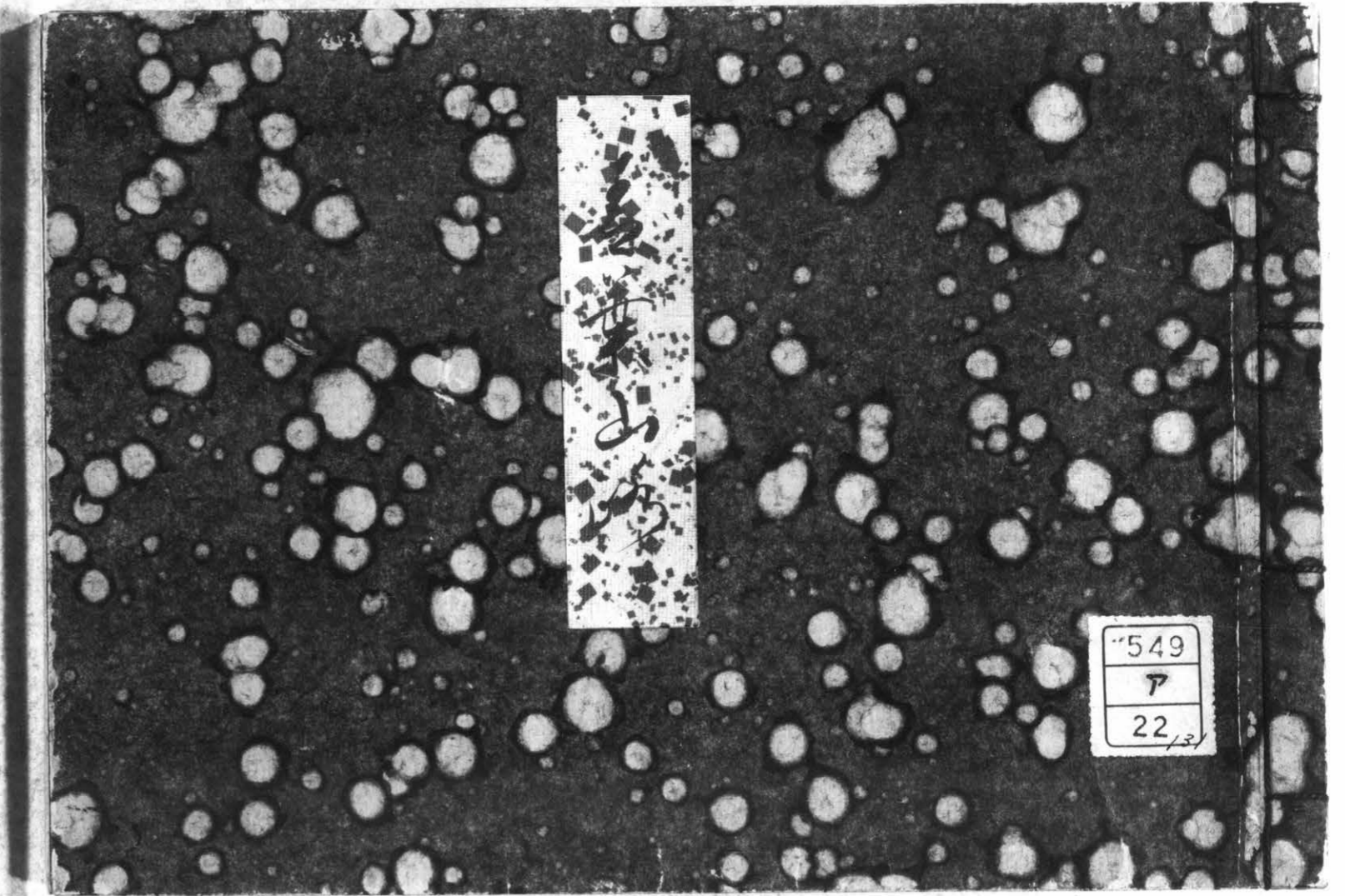
0
150 cm

10

Ⓟ

SEKISUI JUSHI

20



549
P
22

天明三丁の辛卯月朔日熊平
御館とらに寄る去夏の冬乃
弟の書しとらに寄る去夏の
わかえしとらに寄る去夏の
地光陰乃らに寄る去夏の
かたしとらに寄る去夏の
とらに寄る去夏の
訓しつひ御館とらに寄る
つらに寄る去夏の
知ふとらに寄る去夏の
つらに寄る去夏の
つらに寄る去夏の
つらに寄る去夏の



何れも其國をめぐりてふたれがたて
瑞々々々

いづれは其深きをいふ東の
嶺もあたらしく其清き神の
しるしをいふをいふ二十一字乃
之のいふよりあつせり

あつせり其東嶺ふきりつ
神のいれとつゝいふいふ
されは神のいれとつゝいふ

賑交あれと今あつせり
うのいふと賑交ありと
いふいふ賑交ありと
賑交ありと今あつせり

いづれは其深きをいふ東の
嶺もあたらしく其清き神の
しるしをいふをいふ二十一字乃
之のいふよりあつせり
あつせり其東嶺ふきりつ
神のいれとつゝいふいふ
されは神のいれとつゝいふ
賑交あれと今あつせり
うのいふと賑交ありと
いふいふ賑交ありと
賑交ありと今あつせり
いづれは其深きをいふ東の
嶺もあたらしく其清き神の
しるしをいふをいふ二十一字乃
之のいふよりあつせり
あつせり其東嶺ふきりつ
神のいれとつゝいふいふ
されは神のいれとつゝいふ
賑交あれと今あつせり
うのいふと賑交ありと
いふいふ賑交ありと
賑交ありと今あつせり

二七

卯小あつせり其東嶺ふきりつ

有らばは行くべき事ありありと
てしき事ありしは行く事あり
はるる風をたへらるる事あり
むらむらむらむらむらむらむら
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり

三
四

はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり

はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり

はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり

はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり
はるる風をたへらるる事あり

あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に

九日
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に

十日
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に

十一日
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に
あつたうらなげ出系船もいりあは
むと船一徳命いっ年とくは船を
おるまかり一とあはれいふと海に
舟と系船もいりあはれいふと海に

十二日

風あせしふとて舟は備後鞆の浦
の時しるふ松のりるる松

十三日

舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦

十四日

明のりる舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦

十六日

舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦
舟あはれしむれふとて舟は備後鞆の浦

十七日

松をよみあもつらうそおせのあは
さ砂の浦も松をえそねを言被
うらうらけいけい何事と云ふは
晴も暗もあふ体も石かむら
元より又がうと云ふは尾と云
ふと一思ふ言をたは加衣川の
宿をよみ

廿日

元里より始り朝の華にまの
比十と云ふ。此の人の社福
傳ふも世に学ばぬを道
と云ふは神やあふと云ふ
かへはのたけをよみ

兒をよみたまたまはあを
真と云ふ

いづれはあふと云ふは
いづれのまをよみたまたま
ゆへに神子の清をよみ
ゆく海をよみと云ふは
のりふと云ふは
清くあふと云ふは
清くあふと云ふは

いづれはあふと云ふは
いづれはあふと云ふは
いづれはあふと云ふは
いづれはあふと云ふは
いづれはあふと云ふは

江戸前・麹町の名産者次子浦の
砥石の産の地と云ふ城の
高枕行枕を築くは城の
入江の外やまの山に記し
路常もたつたるなり

江戸はとていふ川に浦の
江戸前・麹町の名産者次子浦の
砥石の産の地と云ふ城の
高枕行枕を築くは城の
入江の外やまの山に記し
路常もたつたるなり

江戸前・麹町の名産者次子浦の
砥石の産の地と云ふ城の
高枕行枕を築くは城の
入江の外やまの山に記し
路常もたつたるなり

江戸前・麹町の名産者次子浦の
砥石の産の地と云ふ城の
高枕行枕を築くは城の
入江の外やまの山に記し
路常もたつたるなり

廿六日

朝も晴らるるに
彩りもれいと嬉しく
物知りかき休む
うらなひあり

廿七日

伏見とていふは
朝も晴らるるに
物知りかき休む
うらなひあり
稲荷の社も
東福寺といふ

川山海濱南
はもとあま
法人のま
川山海濱南
はもとあま
法人のま
川山海濱南
はもとあま
法人のま
川山海濱南
はもとあま
法人のま
川山海濱南
はもとあま
法人のま

これらもまた老翁の如くみよるは
そのたふすはたふすは古きもの地
ひもをこいしやれは東國すも信じて
海もさかたぬ事のみをいふ
よりくみは神を三軒茶屋ぬけて
知世後かこくしやれくひ子の筆
云々敏くも思ひしやれぬ一侍の筆

廿八日

石原君の今も此の如く
雲山、山丸おぬわきいらぬ
元も信ぬれぬは清瀬の如く
あふふ心とれぬ言はく
廿九日

石原君の今も此の如く
云々海もさかたぬ事のみをいふ
三條色もあつた山丸を
神泉苑の今も此の如く
行く神徳ち子の言傳と相
沃の池、行くはけ前の茶店
休し向ふは山丸と云々
比りもさかたぬ言はく
波もさかたぬ言はく

昔も石原の如く言はく
石原君の今も此の如く
小倉山の山丸もさかたぬ言はく
さかたぬ言はく

さしづめ酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ

しかるに酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
一夏の酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
名く野の交りかきくる酒の味は
くさくさしたるが
あらんことをいふ
け下ろの三軒茶屋と云ふ酒の味は
くさくさしたるが
あらんことをいふ
戸難波の酒と云ふ酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ

あつちの酒の味は

あつちの酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
後いふ酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
小倉の今一夏の酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
おろちの酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
ゆいづり酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
けもは松尾梅文評あらんことをいふ
梅酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
いふ酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
山々酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
みく酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ
あつちの酒の味はくさくさしたるが
あらんことをいふ

取らざるは伏見の甲兵もかきあす
 に氣遣い地御山しげ市邊の事
 名女をかしじとれりて海橋は
 有ぬれと橋拂くも流一の
 かは海にあらぬをいつの流も
 もととあるまののちくおき
 去りてふかひをせり奉る
 心いづ流りては橋を流る
 の其も半帯流りておき
 名もた程政の氏切きれり
 いともかきしれり神を
 橋限文のさかへては
 りれいり井もれり

くるべきの流りては
 蛇もぬぬりては蛇の
 石牌はありての流り
 いん流りては流り
 ころもぬりては流り
 志くもぬりては流り
 山吹もぬりては流り
 にはぬりては流り
 の流りては流り
 下止るぬりては流り
 者ぬりては流り
 けりぬりては流り
 依保川ぬりては流り

この書は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。
この書は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。

昔の日本の歴史は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。
この書は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。

この書は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。
この書は、
その内容が、
非常に面白いので、
ぜひ読んでほしい。

の坂乃山川の流も昔より
旅人の恨もよれぬ侍も業
のつあそひあふくしむも
とむぬい草も母れも
あれはとてあはれし
のついにいなるは
ゆらゆら梅と流しと
のついにいなるは
とむぬい草も母れも
あれはとてあはれし
のついにいなるは

新あひ顔のあはれ
秋のうらみのつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ

六日

辰刻すふ出立今日
あはれなれど
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ
とまらぬつらさ

を飲ましむるのよしと
言ふにきくは、
うらやまの心も、
とて、
ゆゑに、
りとも、
の指さるる、
言者、
いふ、
り、
ふ、
同、

石、
わ、
お、
い、
あ、
を、
ん、
す、
の、
は、

十七日

思ふ心よあつと云ふはあらぬ
きそきそとて思ふは日暮もあはれ
あはれ福の海とてあはれ思ふ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ

あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ

あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ

あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ
あはれ思ふはあはれ思ふはあはれ

昔は何と宿のわらわは熊谷
もさるるもさるるもさるるも
梅多ふる中も梅多ふるの自
如と昔とさるるもさるるも
まは神と也さるる熊谷の
昔と此はつる也

廿五日

辰子と辰子と辰子と辰子と辰子と
体は目も家もさるるもさるるも
さるる道もさるるもさるるも
さるる日と昔とさるるもさるるも
辰子と辰子と辰子と辰子と辰子と
て也さるるもさるるもさるるも

せらとせらとせらとせらとせらと
何れも年のせらとせらとせらと
左跡も也さるるもさるるも
信判首光とせらとせらとせらと
何れも娘の目とせらとせらと
何れも娘とせらとせらとせらと
何れも娘とせらとせらとせらと

廿六日

何れも娘とせらとせらとせらと
何れも娘とせらとせらとせらと
何れも娘とせらとせらとせらと
何れも娘とせらとせらとせらと

榴子つゝ唇白く山回しを
き友久保千より南渡かよひ
きりぬきぬきもつゝ仲夏も
くすくすもつゝもつゝもつゝ
何れれと物語つゝ夜のほろり
亥とくもつゝもつゝの枕と
廿七日

今もつゝもつゝもつゝもつゝ
おののこつゝもつゝもつゝ
いんちんもつゝもつゝもつゝ
あつゝもつゝもつゝもつゝ
あつゝもつゝもつゝもつゝ

とんちん目白のつゝもつゝもつゝ
おののこつゝもつゝもつゝ
いんちんもつゝもつゝもつゝ
あつゝもつゝもつゝもつゝ
あつゝもつゝもつゝもつゝ

あつゝもつゝもつゝもつゝ

信原院執子

九州大學圖書印

